

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100104
法人名	社会福祉法人ともの家
事業所名	アンジュールともの家
所在地	松山市溝辺町甲94
自己評価作成日	平成28年1月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者の高齢化、重度化が進み、看取り体制を組んだり、医療面での支援の必要な方が多くなってきた。家族、医療者と連携しながら、本人(家族)の意向に沿うような援助に心がけている。そのためには職員間の情報の共有、正確な伝達が大事と全職員が認識するようにしている。また、重度だから仕方がないととらえずに、本人の楽しみや希望が持てるように、残存能力を引き出したり、維持できるようにも取り組んでいる(今年度の事業所の研究発表のテーマで実践した)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>利用契約時、ご家族に利用者の人生史や馴染みの店・友人・場所、1日の過ごし方、できること・できないこと等々、ご家族に様式を渡して記入してもらい、詳細な情報収集に努めている。 毎年、法人内の事業所合同で「実践研究発表会」を開催している。今年度、事業所では「さんの可能性を探る～残存能力を引き出す取り組み」をテーマに職員の取り組みや成果を発表した。 看取り支援の際には「ご家族の意向」と「チームケア」を大切にしている。昨秋に看取り支援した事例では、昔から「食」を大切にされた方ということや、娘さん達の「最期まで口から食べてほしい」という強い希望を踏まえて、職員はたん吸引の講習を受ける等して、体制を整えてチームケアに取り組んだ。又、訪問診療機関の言語聴覚士もチームに加わり、助言をもらったり、時には、口腔内外のマッサージ等も施してもらった。最期の時の直前には、プリンを口を含むこともできて、ご家族はとてよるこばれたようだ。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 アンジュールともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

菅原佐代子

評価完了日

28 年 1 月 10 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 運営理念に「公開、透明、参加、協同」基本方針に「家族はケアパートナー」と掲げている。家族とともに介護することを大切にしているので、家族には好きな時間に自由に来訪していただき、利用者との絆をもってもらっている。地域とのつながりを広げていくために、地域交流委員会を中心にバザー・ロビー展を年に4回実施している。	
			(外部評価) 事業所の理念や運営方針は、額に入れて玄関や居間等に掲示している。理念に基づいた年度目標を職員で話し合い決めており、今年度は「入居者の尊厳ある生活を保証する」等、3項目定めて月1回の職員研修会で実践状況を振り返っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入しており、地域の方にバザー、ロビー展の出品をしてもらったり、バザーや喫茶コーナーも利用者と共に楽しんでもらっている。近所のお店に利用者と職員が一緒に出かけて、買い物したり、散髪屋も利用させてもらっている。利用者の方が外に出て行かれた時なども知らせに来てくださったりして助けられている。	
			(外部評価) 年4回開催する恒例の法人主催バザー・ロビー展は、地域の方やご家族等30～40名程の参加があり、喫茶コーナー等、利用者も一緒に楽しんでいる。出品物や作品は、地域の方や利用者のご家族、地域の小・中学校等の協力がある。中学生の体験学習や短大の介護実習生を受け入れている。ピアノ、お琴、オカリナ等の楽器演奏等のボランティアの訪問もある。秋祭りには、提灯行列の子供達が事業所の中まで入ってくれる。近々「認知症予防」をテーマに、事業所2階スペースで法人主催の介護予防教室を開催する予定がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員による実践研究発表会を開き、地域包括支援センターや近隣の事業所などに案内している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 年間に6回、運営推進会議を開催して、利用者やサービスの実際を報告している。地区の町内会長、広報委員、民生委員の方なども参加してくださり、事業所内部を見てもらって、ホームを身近に感じてもらっている。</p> <p>(外部評価) 会議は、隣接する系列2事業所と合同で開催しており、避難訓練やバザー・ロビー展と併せて行ったり、歯科医師を招いて「高齢者のための口腔ケアについて」勉強会を行っている。市や地域包括支援センターの担当者や地域の方が3名ほど参加しており、事業所利用者のご家族は、昨年2回参加があった。各事業所より利用者の現況や活動、外部評価等の報告を行い、参加者の意見を聞いている。昨年11月の会議時には、利用者の行方不明時の対応のことが話題に挙がり、民生委員の方が間に入って来て、必要時には町内放送をしてもらえることとなった。</p>	<p>今後さらに、会議への家族参加の働きかけと事業所の機能を活かした地域コミュニティーの拠点作りに向けて会議を活かしてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には毎回参加していただき、情報交換などをして協力関係を築いている。ケアサービスの取組みなどをパワーポイントで見てもらって、わかりやすいと言ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に「地域の方との交流」の取組みについて報告した際には、市の担当者から「回覧板に行事の予定等を入れてもらったらどうですか」とアドバイスがあった。又、地域包括支援センターから「夏祭り等に『健康相談コーナー』を設けて協力できます」と言ってもらった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間のみ玄関の施錠をしていて、夜間以外は自由に外にも出てもらっている。近所のかたや全職員で協力してもらっている。また、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を掲示しておいて、職員の意識の徹底をはかっている。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人研修会等で身体拘束をしないケアについて学んでいる。日中は玄関に施錠せず、利用者は自由に出入りしており、時には近隣の方が、歩いている利用者を見つけて知らせてくれることもある。地域の「ふれあいセンター」が利用者の所在不明時に、地域に向けて放送してくれるようになっていく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が自覚をもって、虐待のないように努めている。身体だけでなく、言葉も虐待につながる事を職員間で注意しあっている。今年度の第3回運営推進会議のテーマにあげ、話し合いを持った	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、利用者の中に、この制度の活用の該当者はおられない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時は施設見学や話し合いをしてもらっている。契約の締結、解約について、納得していただけるように十分な説明をこころがけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見や要望をよく聞くようにしている。個別に家族との連絡ノートで要望を伝えてくださる方もいる。日常的に来訪される家族も多く、利用者を中心とした信頼関係を大切にしている。 (外部評価) 利用者個々の担当職員が、月1回、手紙で日々の状況をご家族に知らせている。又、年2~3回法人で発行する「ともの家だより」や、法人のホームページ上で毎月、事業所の取り組みや利用者の日常を写真入りで発信している。年末の大掃除は、ご家族も一緒に行えるよう日時を決めており、掃除後には昼食会を設けている。事業所行事時は、ご家族にも案内して数名の参加がある。さらにご家族が知りたい情報を探ったり、意見を引き出す工夫を重ね、ご家族とのさらなる協力関係を築いてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月、職員会議、管理者会議、各委員会、研修会に代表者が参加して、職員の意見を聞いている。	
			(外部評価)	
			毎年、法人内の事業所合同で「実践研究発表会」を開催している。今年度、事業所では「 さんの可能性を探る～残存能力を引き出す取り組み」をテーマに、職員の取り組みや成果を発表した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は職員がやりがいや向上心を持って働けるように、率先して研修会や委員会などを開催し、職員の意見を聞いている。また、スーパーバイザーの方を招き、意見をもらっている。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			内部研修を月1回は開催し、外部研修への参加も奨励している。新人職員の研修の機会も設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他の事業所に研修会の案内をして、相互にサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居時にはケース検討会を開き、ご家族に参加していただき、利用者本人が安心して暮らせるように、話し合いをしている。また本人に寄り添うことで、信頼関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前や入居時に家族と話し合いを持ち、家族などが困っていること、要望などによく耳を傾け、信頼づくりに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居開始前後に本人の事をよく知るよう努め、また、家族との話し合いで、必要としている支援を見極めるようにしている。話し合いで訪問マッサージや訪問リハビリのサービスを利用している方もいる。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に人生の先輩という尊厳の気持ちで接しながら、得意な分野での役割をしていただいている。家事、詩作り、歌などがある。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていくケアパートナーと位置づけている。毎月、本人の様子を文章にして、家族へ伝えたり、各行事への参加をお願いしている。受診時は原則として家族同伴としている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人にとって大切な馴染みの人の来訪も自由にしてもらっていて、ご家族と一緒に食事をしたり、宿泊されることもある。ご家族との外泊、食事会、ドライブなどされる方もおられ、馴染みの方との関係がとぎれないようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お正月に外泊してご家族と過ごす方や、県外に住む娘さんが利用者の居室に2~3泊することもある。昔は暮会所にも出かけていたような囲碁好きな利用者には、系列事業所の利用者と対局できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に外出して、お茶を飲んだり、同じテーブルに誘って、話をしたり、歌をうたったりしてもらって、孤立感をもたないように支援している。また、誕生会ではお祝いの言葉や歌など、みんなで祝っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された方のご家族にも行事案内などを送って、いつでも気軽に来ていただけるような関係を継続している。ご希望の方には「ともの家だより」（季刊）を送付し、近況報告をしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人または家族の思い、希望、意向を聞き、ケアプランに反映したり、アセスメントシートに記録して、スタッフ間で共有している。	
			(外部評価) 利用契約時、ご家族に利用者の人生史や馴染みの店・友人・場所、1日の過ごし方、できること・できないこと等々、ご家族に様式を渡して記入してもらい、詳細な情報収集に努めている。介護計画の見直し前には「現状・状態」や「本人・家族の思いや希望」をアセスメント用紙に記録して計画に反映している。	利用者との会話や表情、行動等からも利用者の思いや意向を探り、さらに利用者主体の暮らしの支援に取り組んでほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話をうかがって、フェースシートやアセスメントシートに記録して、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのその日の様子を個人記録に書き、また、スタッフ間で申し送りをして、現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の担当職員が中心となって、本人や家族の意向を聞き取り、他の職員と相談して、介護計画を立てている。毎月の職員会議でも、個々の利用者の現状の話し合いをしている。状態の変化時はショートケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は「ご本人の希望」や「残存能力の活用」を大切に作成することを心がけており、個々の担当者が原案を作り、他職員の意見を聞いて作成している。「ケアプラン実施表」で、印を付けて毎日チェックし、月1回の職員会議で話し合いながらモニタリングを行っており、6ヶ月毎に見直している。状態変化時は「ショートケアプラン」を作成し、現状に即した計画作成に努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録に日々の様子、気づきなどを記録し、職員間で情報を共有しながら、日々の実践に活かし、介護計画の見直しにも反映させている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の要望に応じて自由な外出、外泊などに柔軟に対応している。訪問マッサージ、訪問理容、訪問診療を受けられたり、家族の宿泊、食事にも希望に応じている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近くの公園でお花見、運動会をしたり、近くの商店やスーパーに買い物に行かれている。必要に応じて、消防署、民生委員、小学校、中学校、ボランティアの方にも協力してもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 各本人や家族の希望にそって、かかりつけ医を選んでもらっている。24時間対応の訪問診療や3週間、あるいは2週間ごとの往診を受けられている。医療情報は看護師により、ファイルされている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医はご本人の状況によってご家族等が選んでおり、協力医の往診やそれぞれのかかりつけ医の訪問診療を利用している。往診日には、ご家族に同席してもらうようお願いしている。専門医の受診は、ご家族が付き添っている。歯科は状態によって訪問診療を利用している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 通常週4日、看護職員が勤務して、健康管理をおこなっている。受診、往診の対応、薬の管理、家族や介護職員からの相談に応じている。緊急時には24時間相談できる体制をとっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院、退院ともに、安心してすごせるように、病院関係者や家族と情報交換や相談をしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用契約時に家族、医療の協力があれば、看取りまで支援できることは伝えている。27年には3人の方の看取りでの方向を医療者、家族、職員で話し合いをした。</p> <p>(外部評価) 看取り支援の際には「ご家族の意向」と「チームケア」を大切にしている。昨秋に看取り支援した事例では、昔から「食」を大切にしたいということや、娘さん達の「最期まで口から食べてほしい」という強い希望を踏まえて、職員はたん吸引の講習を受ける等して、体制を整えてチームケアに取り組んだ。又、訪問診療機関の言語聴覚士もチームに加わり、助言をもらったり、時には、口腔内外のマッサージ等も施してもらった。最期の時の直前には、プリンを口に含むこともできて、ご家族はとてもよるこばれたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 随時、看護師による指導を受けている。27年6月に消防署員による高齢者の事故防止の講習、27年8月にたんぼぼクリニックによるたん吸引の講習があった。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防職員の指導を受けながら、消防訓練を行った。地域の町内会長、広報委員の参加もお願いしている。 (外部評価) 系列事業所と合同で出火場所等の想定を変更しながら、年2回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。昨年7月には、運営推進会議と併せて避難訓練を実施した。地域やご家族の方の参加もあり「火事の原因として考えられることは、等の質問も出て、より具体的な意見交換ができた。会議時には、水や食料を備蓄していることや、災害時には一時的な避難場所として事業所を開放できることを話している。地域の中学校で行われる自主防災訓練には、職員1名が参加した。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ともの家の運営理念、基本方針を全職員が共有して、職員はそれに基づき、一人ひとりの思いを尊重した支援をおこなっている。全職員が職員ハンドブックを持ち、介護の基本姿勢、接遇態度などを随時、見直している。 (外部評価) 職員は、運営方針の「自己決定、残存能力の活用、生活の継続性」等を意識した支援に努力している。「余計な介護はしない」ことを心がけ、個々の昔からの特技や趣味である編み物や歌、園芸、囲碁、短歌作り等をご本人の生活に採り入れている。トイレ内ではひざ掛けを使い、脱衣時ではバスタオルを用いて羞恥心への配慮にも心がけている。昼食時、勘違いをした利用者のお話をゆっくり丁寧な言葉で何度も説明している職員の様子があった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に利用者の意向を第一として、自己決定ができるように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の勤務者が一人ひとりのペースに添えるように、個別性を大切にしている。また、その日の状況、その時の思いで柔軟な支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できるだけ、その日に着る洋服などを選んでもらっている。だらしないにならないように整容にも気をつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員が同じ料理を同じ場で食べている。利用者の状態に合わせて、刻んだり、ミキサーにかけたりしている。騒音にならない程度に音楽をかけ、会話を食事の邪魔にならない程度でしている。できるだけ、自分の力で食べられるように見守っているが、難しい時はその方のペースに合わせた支援をしている。 (外部評価) 昼・夕食の主菜は、法人の厨房で調理されたものが届くようになってきている。朝・夕食の副菜、日曜日の食事は、職員が近くのスーパーで食材を購入し調理している。利用者と一緒にスーパーに行ったり、カレーやちらし寿司等の希望は日曜日に採り入れている。ミキサー食は、食べる直前に作っている。野菜の下ごしらえやテーブル拭き等を行っている方があり、又、季節によって切り干し大根や干し柿づくりも一緒に作っている。法人内部職員も事業所で一緒にテーブルを囲み、利用者と話しながら食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康チェック表や水分チェック表にその日に記録をして、全職員が意識して、支援している。水分がとりにくい方には果物やヨーグルトなどを提供したり、食事摂取状態の良くない時には、栄養補助食品を随時補っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの支援をしている。うがいができない方にはガーゼでの拭き取りの口腔ケアをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレ誘導表に記録して、全職員が排泄パターンを把握するようにしている。日中はできるだけ布パンツにして、トイレ誘導の支援をしている。 (外部評価) 「トイレ誘導表」を付けて、個々の排泄パターンを確認しながら声かけや誘導を行っている。重度の利用者は、職員二人で介助して、日中は全員の方がトイレで排泄できるよう支援している。ほとんどの方が日中は布パンツとパッドで過ごしており、蒸れ防止にも配慮している。便器の両側に手すりを設置しており、前方にも跳ね上げ式のレストテーブルを設置して姿勢保持や安全にも考慮している。夜間、利用者の居室前からトイレ入り口まで廊下を斜めに横切るように、物干し竿を通して手すりを作り、ご自分でトイレに行けるよう工夫しているケースがある。廊下に電気スタンドを置いて常夜灯にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分や繊維食品の摂取に注意して、できるだけ自然排便に努めている。歩行、体操などの運動も心がけている。また、朝に牛乳やヨーグルトの摂取もしてもらっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴のお誘いは3日に1回ぐらいのペースでしているが、本人の希望に添うようにしている。時間帯は午後が多いが、希望によって、午前にも入浴してもらっている。重度の利用者も機械浴でなく、職員二人介助で湯船で温まってもらうようにしている。 (外部評価) 脱衣場の入り口に「ゆ」のれんを掛けている。使い慣れたシャンプー等を持ち込んでいる方もある。重度の方は、シャワーチェアを使用し、職員2人で介助して浴槽で温まれるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 外気浴や運動などをできるだけとられ、日中気分をリフレッシュしてもらって、夜間に安眠できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬袋に処方されている薬名、用法、用量が記入されている。服薬時には、緊張感をもって服薬してもらっている	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握して、役割発揮をしていただいている。手芸、食器拭き、洗濯物たたみ、掃除、野菜収穫などその都度して下さっている。買い物や散歩、詩作りなどをされる方もいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の重度化に伴い、遠出や長時間の外出は困難になってきているが、日常的に外気浴や日向ぼっこしたり、近所の散歩の支援をしている。家族の協力で遠くにドライブに行ったり、外食をされたり、他の事業所との合同企画で初詣や遠くの公園へ出かけてもらっている。 (外部評価) 法人のアクティビティ委員会が外出やイベントの計画を立てている。法人合同の外出行事にはご家族にも案内をしている。吉海町パラ園やレインボーハイランドのバーベキュー大会に出かけた際には、2~4名の利用者が参加した。又、毎年恒例になっている近くの公園で行う秋の法人合同運動会には、ほとんどの利用者が参加している。重度の方は、気候や体調をみながら事業所の玄関先で過ごしたり、近隣を散歩して外気に触れる機会を多く持てるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、ひとりのかたがお金を所持して、自由に買い物に行かれたりしている。管理はご家族がされている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族が携帯電話を用意して下さり、かけたい時には援助させていただき、ご家族に連絡されている。遠方のご家族と手紙のやりとりをされている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとの壁飾りや花でその時の季節を感じてもらっている。また、利用者にとって懐かしい家具やレコードセットなどを置いている。リビングのまきストーブはやわらかくて温かい空間をつくっている。音が不快にならないように、スリッパをやめている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前には、葉牡丹を植えたプランターが並び、玄関を入ると水仙や南天の枝が飾られていた。居間にある暖炉の薪ストーブの上にはやかんをかけていた。両側に居室が並ぶ廊下は幅広の造りで、壁面に石原裕次郎のポスターを貼り、その前にレコードとプレーヤー、籐の椅子とミニテーブルを置いたコーナーを作っていた。調査訪問時は、居間のテーブルで新聞を読む方や暖炉の前で洗濯物をたたむ方、ひざ掛けをして、ソファでくつろぐ方等の様子があった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングの各所にコーナーを設け、独りになれる所、気の合う人と過ごせる所など、居心地よくできるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の協力により、本人が居心地よく過ごせるように、机、椅子、仏壇、鏡台など置いている。また、家族との写真や思い出の写真も飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人が書いた木の表札をドアに掛けている居室がみられた。使い慣れた鏡台やタンスをご自宅から持ち込んでいる方や化粧品を並べている居室もある。ご家族が、カレンダーに受診日や誕生日、ご家族の面会予定日を書き込んでくれているところもあった。昔から短歌作りを続けている利用者は、事業所近辺の情景等を詠み、ご自分で書き込んだ半紙を壁一面に自由に貼っていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや浴室などにはプレートやのれんを掛けてわかりやすくしている。各居室には個々の表札を掛けている。</p>	